

平成25年度 第1回 倫理審査委員会 会議の記録の概要

開催日時：

平成25年 7月23日（火） 17：00～17：40

開催場所：

独立行政法人国立病院機構菊池病院 会議室

出席委員名：

木村武実、末松直幸、野口利幸、内村美子、益田博文、蛭原賢司、和田冬樹

審議事項：

申請番号 2501

【課題名】 身体合併症を持つ長期高齢入院患者の退院支援

【申請者】 畠 三紀子（菊池病院 医療社会事業専門員）

【研究の概要】 医療現場では低医療政策による早期退院が求められている。その一方で、支援を必要とする患者家族の心身面・金銭的自由や受入施設の条件の不一致等により、地域への退院が困難な症例が少なくない。その狭間の中で身体合併症を持つ患者が安心・安全な場で生活を送る為に、PSWとしてどのような視点を持ち、支援すべきであるのかを考察し、今後の支援に役立てたい。

【判定】 承認

申請番号 2502

【課題名】 高齢の長期入院患者の退院後3ヶ月間の振り返り
～精神科訪問看護を通して～

【申請者】 木庭 友子（菊池病院 看護師長）

【研究の概要】 高齢で統合失調症の30年以上の長期入院患者が、高齢者地域移行支援特別対策事業の参加者に選定され、ケアハウスへの退院に至っ

た。退院後3ヶ月の経過と訪問看護師の関わりを振り返り、地域での生活を可能にしている要因と今後の課題を明らかにし、今後の看護に活かしたい。

【判定】承認

申請番号 2503

【課題名】行動障害が軽減した“動く重症心身障害児（者）”の在宅移行個別支援プログラムの作成に関する基礎的研究

【申請者】甲斐 和歌子（菊池病院 看護師）

【研究の概要】“動く重症心身障害児（者）”の家族の思いを知り、個別支援プログラムに在宅移行に関する項目を盛り込むための基礎資料を得る。また、それにより“動く重症心身障害児（者）”ならびに家族に対する在宅支援の方向性を検討する。

【判定】承認

申請番号 2504

【課題名】効果の異なる2種類の精油を用いたアロマセラピーによるBPSDへの効果

【申請者】宮本 美雪（菊池病院 看護師長）

【研究の概要】先行研究において認知症患者に対し、効果の異なる2種類（交感神経作用型及び副交感神経作用型）の精油を使用することで患者のサーカディアンリズムを整え、BPSDの改善を目的とした研究が取り組まれておりその有用性が実証されている。しかし研究対象者はアルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症が主であり、FTLDを含めた報告はない。今回、先行研究と同じく効果の異なる2種類の精油を使用し、患者のサーカディアンリズムを整えることで二次的にBPSDの改善に繋がること、FTLDにおいても言えるのかを検証したい。

【判定】承認

申請番号 2505

【課題名】 B P S Dに対するラメルテオンの有効性および安全性の臨床研究

【申請者】 木村 武実（菊池病院 副院長・臨床研究部長）

【研究の概要】 認知症高齢者では、夜間のメラトニン分泌が低下するため、夜間不眠、睡眠覚醒リズムの障害をきたしやすい。また、このリズム障害はB P S Dの要因の1つと考えられている。これらのことから、ラメルテオンはリズム障害を調節し、B P S Dを軽減することが期待される。そこで、本研究では、ラメルテオンのB P S Dに対する有効性と安全性を調べるために、ラメルテオンを投与された認知症高齢者を後方視的に解析する。

【判定】 承認